

美浜発電所に係る住民説明会に関する質問・意見への回答について

番号	質問先	ご質問・ご意見	回答
1	原子力規制庁	<p>大阪地裁の大飯原発3, 4号機の判決について</p> <p>大阪地裁の大飯原発3, 4号機の設置許可取り消しの判決では、「ばらつき」を考慮せず平均値で地震規模を決めている国の審査では、過小評価になると批判している。この判決は「ばらつき」を考慮していない美浜3号機の評価でも当てはまると思うがどうか。</p>	<p>原子力規制委員会は、大飯発電所及び美浜発電所の基準地震動の策定に係る審査において、基準地震動が、敷地及び敷地周辺の地域的な特性を踏まえて、地震学及び地震工学的見地に基づく総合的な観点から不確かさを十分に考慮して策定されていることを確認し、妥当であると判断しています。</p>
2	資源エネルギー庁	<p>エネルギーミックスについて</p> <p>新たなエネルギーについて研究はされているのでしょうか？また、それは、どんなものですか？</p>	<p>エネルギー技術には多様な選択肢があり、現行のエネルギー基本計画においても、「エネルギー技術こそ安全確保・エネルギー安全保障・脱炭素化・競争力強化を実現するための希少資源である。全ての技術的な選択肢の可能性を追求し、その開発に官民協調で臨むことで、こうした課題の解決に果敢に挑戦する」、「再生可能エネルギーや水素・CCS、原子力など、あらゆる選択肢を追求する」とされています。</p> <p>例えば、昨年末に策定された「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」においては、今後の産業としての成長が期待され、2050年カーボンニュートラルを目指す上で取組が不可欠な14分野において高い目標を設定し、エネルギー関連産業として、原子力産業以外に、洋上風力産業、燃料アンモニア産業、水素産業を挙げています。</p> <p>今後もエネルギー基本計画の方針に沿って、あらゆる選択肢を追求してまいります。</p>
3	資源エネルギー庁	<p>ベースロード電源として原発を残すことについて</p> <p>40原則年という原発の運転期限を延ばすのは、原発事故の危険性を高めるものだと思う。更にベースロード電源として原発を残すことは、故障や定期点検で止まる間の電力を火力で補うことを必要とするので、火力を減らす事にならないと思うがどうか。</p>	<p>原子炉等規制法において、原子力発電所の運転期間は40年ですが、1回に限り、最大20年間の運転延長が可能としています。運転期間の延長については、電力会社が申請した場合に限られ、原子力規制委員会による通常の手続きに加えて、経年劣化の状況の確認などを追加的に行うことで、通常の再稼働よりも厳しい審査を行うこととなっています。</p> <p>こうした厳格な審査に加え、運転期限を延長した炉を含めて、運転を再開した後も、事業者及び原子力規制委員会によるプラントの状態等の検査が継続的に行われることとなっています。さらに、事業者に対しては、安全基準の対応にとどまらず、リスク管理手法の不断の改善に取り組み、トラブル等を可能な限り縮減していくように指導してまいります。</p> <p>その上で、原子力発電所の定期検査等による停止時には、その分を一時的に火力発電が補うことも想定されますが、ベースロード電源である原子力発電の活用それ自体を行わない場合には、火力発電への依存は非常に高い水準に常時とどまってしまうため、安定供給性や環境適合性の観点から、原子力の活用を欠かすことはできないものと考えています。なお、定期点検については、安全性の確保はもちろんのこと、電力の安定供給や環境配慮の観点からも、可能な限り計画的に実施していくこととしております。</p>

美浜発電所に係る住民説明会に関する質問・意見への回答について

番号	質問先	ご質問・ご意見	回答
4	関西電力	<p>美浜原発1、2号機について</p> <p>廃止する予定とお聞きしましたが、安全上の問題は無いのでしょうか？何年くらいかかるのでしょうか？</p>	<p>原子力発電所を廃止すると、原子炉の中で核反応が行われなくなり、新たに放射性物質は生成されなくなります。ただし、使用済み燃料や運転中に生成した放射性物質が施設の中に残っているため、原子力発電所の廃止措置では、燃料や放射性物質（放射性廃棄物）を対象施設から搬出しながら、施設の解体を進めていきます。</p> <p>このように、廃止措置が進むに従い、施設における（放射性物質による）安全上のリスクは徐々に減少していき、廃止措置が終了する時点では、放射性物質によるリスクがなくなる状態になります。</p> <p>美浜発電所の1号機と2号機については、2017年4月から廃止措置に入っており、約30年後の2045年にかけて、安全最優先に廃止措置を進めていきます。</p>
5	関西電力	<p>40年を超える原発の再稼働について</p> <p>取り替えることができない原子炉容器は、長年の中性子の照射により遷移温度が高くなり、事故の際、冷却水の緊急注入による急激な温度低下により破損する恐れがあると指摘されている。40年を超える原発の再稼働は重大事故の危険がありやめるべきと思う。</p>	<p>原子炉容器に使用している材料は、中性子の照射により脆化（ねばり強さの低下）が生じますが、以下の確認を行うことで、60年間運転した程度のねばり強さの低下では事故の際に壊れないことが確認できており、本内容は原子力規制委員会にも確認頂いています。</p> <p>①原子炉容器の状態把握</p> <p>a. 点検により傷がないことを確認</p> <p>40年を超えるに際して、ねばり強さの低下が懸念される全ての領域（母材、溶接金属）に対して特別点検（超音波による詳細な点検）を実施し、破壊を引き起こすような傷がないことを確認しました。</p> <p>b. 実験（監視試験）により、ねばり強さの低下程度が予想通りであることを確認</p> <p>建設時に、原子炉容器と同じ材料の金属をカプセル（8体）に入れ、容器より燃料に近い位置に設置しています。そのカプセルを計画的に1体ずつ取り出して、原子炉容器のねばり強さがどれだけ低下しているかを測定しています。これまでに4体のカプセルを取り出して測定した結果、ルール（学協会規格）で定められている予測式を用いてねばり強さの低下度合いを計算した結果と同様の傾向であり、異常な傾向を示していないことを確認しています。</p> <p>②事故時に壊れないことの確認</p> <p>60年間運転した場合の原子炉容器のねばり強さと事故の際に生じる破壊力を比べ、ねばり強さが十分あるため、事故時に壊れないことを確認しました。</p> <p>この際、60年運転時点のねばり強さについては、上記①bの通り原子炉容器内のカプセルを用いて測定した結果と同様の傾向を示すことが確認できている予測式を用いて算出しています。また、上記①aの通り点検で傷がないことを確認しているにも関わらず深さ10ミリの傷があることを仮定するなど、安全側に評価するために、あえて大きな破壊力を設定していますが、それでも事故時に壊れないことが確認できています。</p>

美浜発電所に係る住民説明会に関する質問・意見への回答について

番号	質問先	ご質問・ご意見	回答
6	内閣府	<p>原発事故発生時の避難における道路状況について</p> <p>現在、西浅井町から南へ避難する場合、国道8号線ひとつしかありません。早急に西浅井、余呉線の道路整備をお願いしたく、よろしくです。</p>	<p>原子力災害の備えに「終わり」や「完璧」はなく、常に改善を続けることが重要です。関係自治体と一体となって、継続的な訓練等を通じて、避難計画の実効性がより向上するよう、更なる充実・強化に取り組んでいるところです。</p> <p>道路の整備は、住民の安全・安心の観点からも重要です。</p> <p>内閣府としても、避難経路の充実強化等の検討に係る調査経費を支援するとともに、避難をより円滑に実施するための「原子力災害時避難円滑化モデル実証事業」を実施してきています。</p> <p>引き続き、住民の安全・安心を第一に、関係省庁で取り組んでいくこととしております。</p>
7	内閣府	<p>UPZ内の小中学校の児童生徒と職員の安定ヨウ素剤配布について</p> <p>UPZ内の小中学校には、児童生徒と職員用に安定ヨウ素剤が備蓄されているが、安定ヨウ素剤の緊急配布の時に、これらの小中学校の児童生徒と職員には、いつ、誰がどのように配布することになっているのか。</p>	<p>安定ヨウ素剤の緊急配布については、原則として、原子力規制委員会が服用の必要性を判断し、原子力災害対策本部又は地方公共団体の指示に基づき、緊急配布は備蓄場所となっている一時集合場所等にて、県及び関係市職員が、対象住民等に順次配布を実施することとしています。</p>